

インド下院総選挙—与党連合は過半数を維持、圧勝ならず

インドで約1ヵ月間にわたり行われていた下院総選挙は6月4日に一斉開票が実施されました。

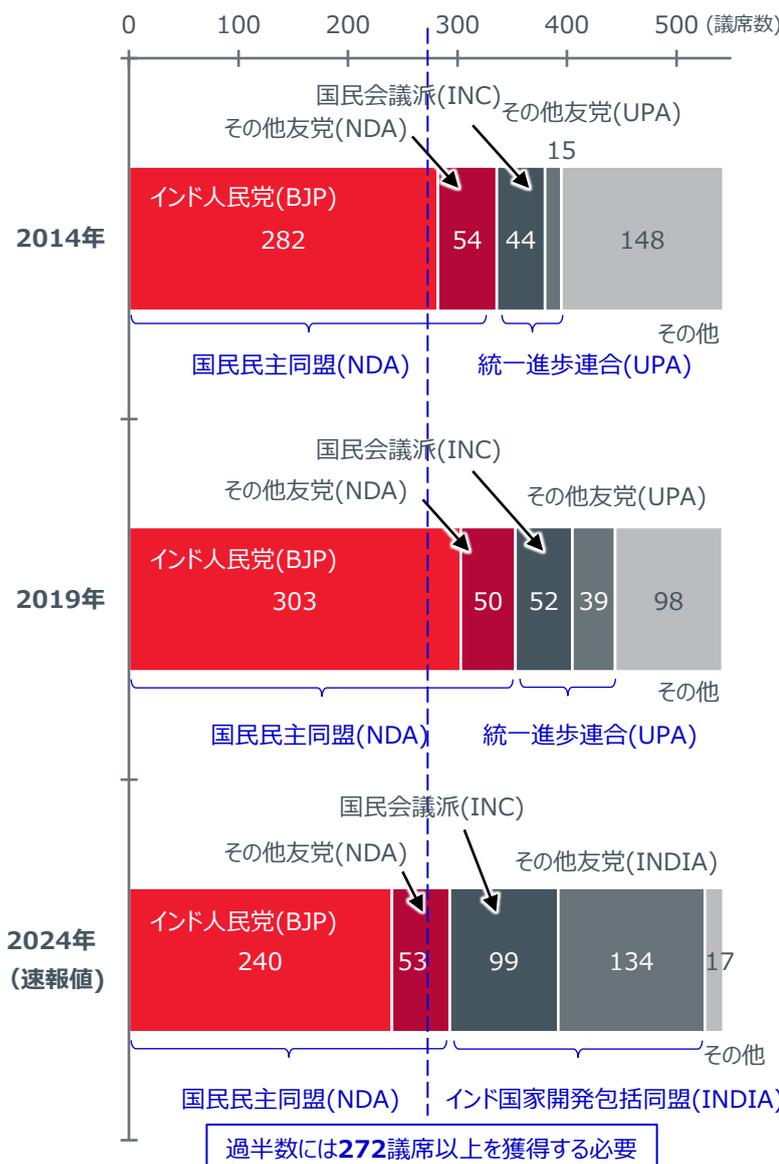
開票の結果、モディ首相率いる『インド人民党(BJP)』が主導する与党連合『国民民主同盟(NDA)』は過半数を維持したものの、前回選挙(2019年)から議席数を減らし、出口調査で見込まれていた圧勝には至らないことが明らかになりました。

開票の結果および金融市場への影響と今後の見通しについてご説明します。

➤ 与党連合は過半数を維持、しかし圧勝には至らず

- ✓ インドでは5年に1度の下院総選挙の投票が4月19日から6月1日までの約1ヵ月間、7回に分けて行われていましたが、**6月4日に一斉開票が実施**されました。同選挙は、最多数となった政党から首相が選出されるため、**事実上の首相選挙**とも言えます。
- ✓ 開票の結果(定数543議席)、モディ首相が率いる『インド人民党(BJP)』が主導する**与党連合『国民民主同盟(NDA)』が過半数を維持**したものの、前回選挙(2019年)から議席数を減らし、出口調査で見込まれていた**圧勝には至らない**ことが明らかになりました。またBJPは単独では過半数を割り込みました。BJPが単独過半数を割り込むのはモディ政権が発足した2014年以降初めてとなります。(➡図表1参照)
- ✓ 一方、野党連合の『インド国家開発包括同盟(INDIA)』は事前予想より健闘し、大きく議席数を伸ばしました。モディ政権下では経済成長が続く一方、農村部を中心に高い失業率や経済格差に対する不満が高まっており、野党連合がこうした不満票を取り込んだものとみられます。
- ✓ 議席数は減らしたものの、与党連合が過半数を維持したことを受け、モディ氏は6月4日夜(現地時間)、BJP本部で勝利宣言をしました。今後は、3期目の政権維持に向け連立与党内での協議を急ぐものとみられます。現地報道によると、8日にモディ氏の首相宣誓式が予定されています。

【図表1: インド下院総選挙の結果】



出所: 各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。 ※2024年6月5日時点。速報値のため、修正される可能性があります。

○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

240606(04)

(1/2)

▶ インド金融市場への影響

- ✓ 開票作業が6月4日に始まり、選挙結果が予想よりもはるかに接戦となり野党連合の善戦が伝わると、これを嫌気し同日の金融市場は一時的にボラティリティが高まり、急落しました。
- ✓ 株式市場では代表的なインドの株価指数であるSENSEX指数は4日、前日比マイナス5.74%を記録しました。しかし翌5日は落ち着きを取り戻し、前日比プラス3.20%で終えました。(⇒図表2参照)
- ✓ 債券市場でも国債利回りは上昇(価格は下落)し、4日のインド10年物国債の利回りは前日比プラス9bps(0.09%)を記録しましたが、翌5日は前日比マイナス1bps(0.01%)で終えました。(⇒図表2参照)
- ✓ 今回の開票結果は、“モディ首相率いるインド人民党(BJP)中心の与党連合が圧勝する”との大方の予想から外れた結果となりました。しかし、インド人民党(BJP)は240議席(2019年は303議席、2014年は282議席)獲得し、依然として第一党であり、さらに与党連合『国民民主同盟(NDA)』は293議席を確保し、政権運営に必要な過半数の272議席を上回っている点を忘れてはなりません。

【図表2: 金融市場の動き (2014年5月26日～2024年6月5日)】



▶ 今後の見通し

■ 株式市場

- ✓ インドの長期にわたる成長ストーリーの基本的な推進力：●膨大な人口ボーナス、●1人当たり所得の増加、●抑制されたインフレ、●デジタル革命、●企業の強固なバランスシート、●財政再建への取り組み、などは依然としてしっかりと機能しており、今回の選挙結果を受けて削がれるものではありません。
- ✓ 3期目の政権維持に向けた連立与党内での協議が予定されていますが、今回の選挙で与党連合NDAが3期連続で安定多数を占めたのはまぎれもない事実です。今後、農村部の所得と雇用に政策の重点が置かれる可能性があることを除いて、大きな政策変更はないと私たちは予想しています。そのため、選挙結果が私たちの見通しを実質的に変えることはありません。
- ✓ ただし、政局の行方によって一時的にインド株のボラティリティが高まる可能性については注意が必要です。

■ 債券市場

- ✓ 下院総選挙の結果を受けて、財政の焦点が農村部への支出増加に移る可能性があると考えています。しかし2024/25年度の暫定国家予算案では既に農村開発への歳出増加が計画されており、こうした動きが債券市場に大きな影響を与えるとは考えにくいとみています。
- ✓ 金融政策については、インド経済は順調に成長しており、インフレ率も中銀の想定範囲内にあるため、中銀が政策スタンスを変更する可能性は低いと私たちは考えています。

出所：ICICIAMのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。ICICIAMはイーストスプリング・インベストメンツの属するグループのインドの運用会社です。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。